

後夜ゴ仏ヤ法フツ僧ホウ鳥ソウをチ聞ヨウく

空クウ

海カイ

閑林カンリン独坐ドクゾ草堂ソウドウのノ曉トキ

三寶サンボウのノ声コエ一鳥イツチョウにニ聞キく

一鳥イツチョウ声コエ有アり人ヒト心ココロ有アり

声セ心シン雲ウン水スイ俱トモにニ了リョウ了リョウ

【作者】空海(七七四〜八三五年 平安初期の高僧。真言宗の開祖。讃岐国(さぬきのくに 香川県)多度郡屏風(びょうぶ)ヶ浦の人。俗姓佐伯氏、幼名眞魚(まお)、諡(おくりな)弘法大師。十八才にして出家。延暦(えんりやく)二三年(八〇四)遣唐使に従つて唐に入り

慧果阿闍梨(けいかあじゃり)に会い、真言、秘密両部の法を受け阿闍梨の位と、さまざまの法具仏典を授けられ大同元年(八〇六)帰国、高野山に金剛峰寺(こんこうぶじ)を建立(こんりゅう)、のち朝廷より京都の東寺(とうじ)を賜り真言宗の根本道場とする。

諸国を歴遊して諸民を援(たす)ける。数多の著書あり。承和二年(八三五)三月二十一日没、年六十二才たす

【語釈】*後夜・佛教では一夜を初夜(そや)中夜(ちゅうや)後夜(ごや)の三夜に分け 後夜は午前5時ごろ *佛法僧鳥・「木葉木菟(このはづく)」のこと むくどりくらの小形のみみずくで「ブツポースー」と鳴く *三寶佛法僧・仏徒 の三つの宝で仏宝(ぶつぼう

積迦) 法宝(ほうぼう) 説教(せつこう) 僧宝(そうぼう) 修法者(しゆほうしや)をいう。*雲 水・雲と川のながれ *両 両・文明・明らか

【通釈】高野山の静かな林中、暁の草堂に独り坐して無我夢想の境地に居る時、どこからともなくブツポースーと鳴く鳥の声がする。鳥は無心に鳴いているのであろうが、この鳴き声のうちに仏法僧の三宝を悟つたのである。鳥の声と人の心とが、更に山中の雲と川の流れとまじり一つに融け合つて、ここに仏の教えをはつきりと悟ることができた。